

ピアホームだより

2019. 1.10

グループホーム 10年になります

東京都の定年と同時に始めることが出来たグループホームですが、今年 10 年目を迎えることになりました。私も、健康で古希を迎えられたことを喜んでます。

10 年はあつという間でしたが、人生の中でも大変充実した期間だったと思います。

自分主体で仕事に打ち込めたこと、娘の状態が安定しリカバリーに向かっていると思われることなどです。

特に昨年は、困難を抱えた患者の受け入れにも挑戦し、更に一步進んで精神医療・リハビリの現状や様々な支援の実態にも触れることが出来ました。福祉の分野の頑張りは本当に感心し、敬意を払いたくなるものが多くあります。

私も遅ればせながら、ちょっとは社会貢献出来ているのではと思えるようになって来ました。

今年も、一つ一つ積み重ね、健康でいられる

限り仕事を続けて行こうと決意しているところです。

第61回日本病院・地域精神医学会参加

12月13・14日、江戸川区のタワーホール舟堀にて病院・地域精神医学会が開催されました。

今回は、東京開催ということで多摩で開催されて以来数年ぶりの参加です。

プログラムを見て目に付いたのは、KAZOCの方が司会者となっていた部会です。

KAZOCさんは今年度、我がピアホームの近くでプラムタウンというグループホームを立ち上げたばかり。熱心な世話人を得て、その今後に期待しておりました。

この部会は、ホームレスの方の住宅問題から課題に取り組んでいるグループが中心で、その取り組みは自ずと精神や知的障がい者の問題をはらんでいるという事です。

住まいファースト！

従来のように、色々整えてから住まいをという事ではなく、まずは住まいを確保するという事が大切という考え方です。大いに賛同しました。

精神科処方薬の減薬とリカバリーを語り合う「お薬当事者研究」—交流コーナーにも、途中

から顔を出しました。

パネラーの当事者、当事者でもある薬剤師さん、そして司会は顔見知りのジャーナリスト月崎さん、医師もアドバイザーとして参加されていました。

専門家は専門家で知識に引っ張られ事実を見過ごしがちですが、当事者の主観的な意見というのも薬によるものか自身の症状か判然とせず、また、薬のエビデンスは原則的なものしか判明してものがない中で、議論は堂々巡りをしているようにも思えました。

患者と医師の共同作業で薬の良い使用を見つけて行ければいいとの認識を共有しました。皆から一言が求められましたので、これ幸いと最近思うところ、薬じゃないよ！まず環境調整だよ(白石先生の受け売り)という事を発言して来ました。

この学会は、医師が集まる学会とは異なり、患者・家族、支援者の方が主体のユニークな学会です。医師はますます離れ？むしろハグレ医師？社会の日の当たらない部門に見事にスポットをあてているかもしれません。

今月の予定

< 1月17日 > Yさんのケア会議

